

校友会会報

No. 23



酪農学園大学同窓会校友会

2017年1月1日発行

新年の挨拶

酪農学園大学同窓会校友会 会長 小山 久一

■はじめに

酪農学園大学同窓会校友会（以下、校友会）会員の皆様におかれましては無事に新しい年をお迎えのこととお喜び申し上げます。また、日頃校友会活動にご理解とご支援を賜り深く感謝いたしております。昨年は熊本県と大分県地方に相次いで地震が発生し、また大型台風による東北・北海道の水害など自然災害が頻発し、少なからぬ会員が被災され、中にはいまだに元の生活に戻れていない方もいるようであります。心からお見舞いを申し上げますとともに、1日も早く元の生活に戻れることを願っております。

■校友会活動で知ってもらいたいこと

一つには、在学生（準会員）に目を向けた事業活動を展開していることです。校友会の2016年度事業は5月に開催された理事・代議員会において審議決定され、それに基づいて進行中であります。内容としては会員相互の親睦を図ることを第1としておりますが、準会員への各種支援活動も組み込まれております。例としては、新入生への校友会オリジナル革製パスケースの贈呈に始まり、学園祭（白樺祭）への助成、食生活応援企画や大学の食生活改善運動への協賛、さらに卒業式当日には学位記を入れるホルダーや卒業写真・酪農讃歌CDを贈呈しています。また、25回の歴史をもつ同窓生主体のホームカミングデーへの参加も歓迎しております。

このように校友会は、「頑張っている学生を応援したい」という同窓生の気持ちを汲みとり、学生支援として実施しております。校友会が今後も準会員に目を向けた支援活動を拡大していく理由の一つには、学生時代から校友会活動を理解し、卒業後は積極的に校友会ならびに酪農学園同窓会の活動に溶け込んでいってほしいとの期待もあります。

二つ目は校友会の役員に会長、副会長の他に事務局長を置いていることでもあります。事務局長は理事会に報告しなければなりません。事務細則を定める権限を持ち、事業運営を円滑に進めると共に、関係部署との調整や新しい事業の計画立案の役も担っております。まさに校友会の大番頭であり縁の下の方力持ちです。歴代の事務局長の手腕によって校友会の一本化が推進し、これまでに発展してきたといっても過言ではありません。このようなことを知っている会員は意外と少ないので、ぜひ事務局長（現在は加藤清雄理事）の存在を知っていただき、応援をお願いいたします。

■校友会の発展のために

校友会が今後も発展していくには、活動を支える力を高めていく必要があります。当然、財源を安定的に確保していく必要はあります。

校友会の財源は、準会員の納める会費がメインでそれ以外は極めて少額であります。以前は卒業時に同窓会会費を納めてもらいましたが、現在は入学時に全員に納めてもらっております。この方式と会費の値上げにより、現在は安定した収入が得られるようになりました。また酪農学園同窓会（以下、同窓会）の支部活動助成費も増額することができるようになり、校友会が行う周年事業に向けた基金作りも可能になって

きました。しかし、このように準会員の納付金に頼っていると、2018年度から始まり、その後も階段を転げるがごとく減少していく18歳人口問題が現実となった時、校友会の財源を確保できなくなる可能性が現実のものとなってきます。そのためには、安易に会費の増額や新たな会費の徴収を考えずに、今のうちに校友会活動を活発化し、卒業生が集まりやすい環境を整え、本来の目的である卒業生の親睦を深めていく必要があります。例えば以前行っていた卒業後10、20、30年の同期会の復活や教員の退職記念に合わせた同期会も良いと思います。また、2016年で25回目となったホームカミングデーを従来の名称と内容を保ちながらも卒業生や在学生が共に過ごす「野幌祭」のようにすることにより、理解しにくかったホームカミングデーをより身近に感じてもらえるようになり、掛け替えのない素晴らしい一日を楽しんでもらえるものと思います。校友会活動が活発になり卒業生の支援を受けやすくなるのがこれからの校友会の力になっていくものと考えております。



■変わり続ける

変わらぬために変わり続けるという話があります。校友会が掲げている「会員相互の親睦交流」という目標はこの変わらぬものであります。校友会会員を結び付けているこの基本を守り続けるために校友会は努力を継続していく必要があります。すなわち、変わらぬ究極の目的のために変わり続ける校友会でありたいと願っております。全国で開催される同窓会に参加していると平成と昭和生まれの会員の間に同窓会に対する価値観の不連続を感じます。よく聞く話の一つに昭和生まれからは先輩との交流が少ない、平成生まれからは昔の話ばかりというのがあります。昭和生まれでも平成生まれと同じように感じている若い人もいます。親睦交流の観点から考えると昭和と平成の調和のとれた雰囲気、すなわち若い人同士の交流をにこやかに見守りながら、若き日の自分を思い出し、新たな活力が得られるような雰囲気に変わっていくことが大切で、究極の目標である親睦を変えぬために交流のあり方も変わり続けていく必要があると思います。

■おわりに

卒業生にとって現実の社会は厳しいものがありご苦労を重ねていることと思います。校友会は大学の卒業生と大学院の修士生を無条件で受け入れ、交流を通して親睦を図る組織です。今年も卒業生にとって社会の価値観と異なる物差しを持ち、存在することに価値のある校友会を目指してまいりますのでご支援のほど宜しくお願いします。また今年が希望に満ち、皆さんの目標が達成され一歩も二歩も前進する年でありますよう心から願い、ご挨拶といたします。

■循環農学類「学類の近況」

循環農学類長 高橋 圭二

同窓生の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。2016年度の循環農学類の近況についてご報告申し上げます。

循環農学類では、2014年度フィールド教育研究センター（FEDREC）における酪農生産ステーション、肉畜生産ステーション、作物生産ステーションの施設整備が完了し、各施設が本格稼働をはじめ2年が経過しました。肉畜生産ステーション（元野幌）に整備された、豚、鶏、綿羊等の中小家畜の施設も実習に活用されているとともに、出荷も始まっています。また、酪農生産ステーションの既存バイオガスプラントは機器の老朽化に伴って発

電をすることができなくなりました。現在は、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の実験用バイオガスプラントが新たに設置（既存施設に併設）され、北大やエネルギー総合工学研究所での実験に使われています。

2015年度末、循環農学類では食物利用学の筒井静子准教授が退職されました。新任教員としては、食物利用学研究室に宮崎早花先生、栽培学研究室に亀岡笑先生、植物病理学研究室に薦田優香先生が加わりました。新たな教員を迎えてより実践的な教育の充実に努めていく所存です。



肉畜生産ステーションの豚舎



鶏舎飼養状況

❖❖❖ 退職教員の近況 ❖❖❖

人生を楽しむ

筒井 静子

皆様お元気でしょうか。私は退職後、かねてより計画していましたカフェを江別で長女と一緒に開業して忙しい日々を過ごしています。商売とは無縁の素人が開業した訳ですから、オープンまでには本当に多くの方々にお世話になり貴重なアドバイスをいただきました。

特に食材は、酪農学園OB・OGの方々のご協力で地元野菜や食肉・乳製品等を仕入れています。これを機に、改めて食に関する様々な場面で多くの卒業生が活躍している！と痛感しているところです。カフェではこのようにして調達した大切な食材を使って、美味しく提供するよう日々心がけています。

店名は「cafe & food Bon vivant」と言いますが、フランス語で“人生を楽し



カフェで調理に奮闘中

む又は良く食べ良く飲む”を意味します。お陰様で2016年6月のオープンから現在、多くのお客様にお越しいただいています。私は写真のように奮闘していますのでお近くにおいでの際はぜひお立ち寄りください。



奥に小上がりもある店内の様子

Facebook

<https://www.facebook.com/bonvivant.ebetsu>

Instagram

[bonvivant.ebetsu](https://www.instagram.com/bonvivant.ebetsu)

■食と健康学類「学類の近況」

食と健康学類長 竹田 保之

食品科学科、食品流通学科ならびに食と健康学類卒業生の皆様におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。

さて、2016年3月には食と健康学類2期生163名が新たに社会へと巣立ちました。また、管理栄養士国家試験では卒業生35名中34名が合格いたしました。4月には学類全体で171名の入学者があり、2016年5月1日時点で744名の学類生が在学しております。

2016年3月で、眞船直樹先生と清野康二先生が定年でご退職されました。眞船先生は北海道大学病院検査輸血部で多忙な日々を送られているかたわら、本学の講義もお引き受けいただき、週に一度は教壇に立たれ管理栄養士コースの教育にご協力いただいております。清野先生にも本年度は2、3年生の講義をお引き受けいただき、基礎ならびに専門教育でお力添えをいただいております。また、清野先生は尾碕先生の研究室で研究生として、日々研究活動を続けておられます。定年でのご退職とは別に、三人の先生が食と健康学類を離れ、新しい職場に移られております。食品消費経済学研究室の相原延英先生は2016年4月より名古屋文理大学健康生活学部フードビジネス学科准教授として勤務されております。また、応用生化学研究室の田上貴祥先生は2016年8月より、北海道大学大学院応用生命科学分野助教として勤務されております。宮崎早花先生は現在、本学循環農学類食物利用学研究室の教員として循環農学類の授業だけでなく、食と健康学類の授業もご担当いただきお忙しい日々を送られています。皆様のますますのご活躍をお祈りしております。

本年度より松野一彦先生（栄養学研究室）と嘱託助手の吉田訓子先生のお二人が勤務されております。松野先生は眞船先生の後任として学生相談室も担当されているほか、本年は学校医としての職責も担うこととなり、管理栄養士コースの教育、研究はもとより大学、学園の健康管理にもご尽力いただいております。2017年3月には長年にわたり、食品科学科ならびに食と健康学類の教育、研究にご尽力いただいた肉製品製造学研究室の石下真人先生が定年でご退職となられます。

表 2015～16年レシピコンテスト入賞学生

大会名	開催年	賞と受賞者
病院レシピコンテスト	2015年	低カロリースイーツ部門 銀賞：宮本彩加、吉野浩世、森伊歩希（3名チーム） 入選：佐藤薫 乳和食部門 銀賞：宮本彩加、吉野浩世（2名チーム）
		全国病院レシピコンテスト
ベル食品レトルト開発コンテスト	2016年	スープ部門 準大賞：宮本彩加、甲斐みづき（2名チーム） 準大賞：森伊歩希、栗原隆吾、芦崎和抗（3名チーム） ごはんかけ部門 準大賞：森伊歩希、栗原隆吾、芦崎和抗（3名チーム） 入選：宮本彩加、甲斐みづき（2名チーム）

2015年から2016年にかけて、管理栄養士コースの学生がいろいろなレシピコンテストで受賞しており誠に頼もしい限りです（表参照）。また2016年8月1日には「北海道の食産業の展望と食品研究の新たな取り組み」と題し、本学での乳製品製造の紹介と山口昭弘先生、石井智美先生、阿部茂先生が中心となって進められているワインプロジェクトも含めた北海道のワイン産業についてのシンポジウムを開催いたしました（写真参照）。今後も学類からの情報発信がより活発になればと強く思う次第です。

食品科学科、食品流通学科ならびに食と健康学類の同窓生の皆様におかれましてはご健康に留意され、ますますご活躍されることをご祈念申し上げます。ならびに今後とも食と健康学類の教育、研究に格段のご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。



シンポジウム「北海道の食産業の展望と食品研究の新たな取り組み」

■環境共生学類「国際をキーワードとした学類へ！」

環境共生学類長 吉田 剛司

レポートの提出を期限厳守させるのも教員の仕事である。一方で大学教員こそ、自分の締め切りを守らない。そんな身勝手な生き物が議を講じて良いのか不安になる。またも締め切りを失念し、この原稿は空の上で家族以上に一緒に過ごす時間が多くなってしまった仕事のパートナーのパソコンと準備を進めている。現在日付変更線を通過し、搭乗機は目的地であるワシントン・ダレス国際空港（ワシントンDC）に向かっている。

1998年3月高校を卒業した筆者は、同じように渡米した。当時円高の時代に突入したバブル後期であったが、本当にドキドキしながら飛行機に乗って日本をたったの

を思い出す。まだ、関西空港ではなく伊丹空港から成田空港経由のシカゴ行きであった。1998年3月生まれの子が今年大学1年生となる。

前置きだけ長くなったが今回の旅の目的は、大学院生と一緒にノースカロライナ州で開催されるThe Wildlife Societyという野生動物学分野では最も賑やかで大きな学術大会にて研究成果を発表するためである。

このように学生と一緒に海外に出張する。もちろん道内も走り回り、研究室ではあまり見かけないので、学生から確認が困難な絶滅危惧種のような扱いを受けている。しかし学類長として学類教員の出張書類に捺印すると、本学類の教員は本当に学外に赴くことが多いと気づく。しかも海外の調査研究が多い。

環境を学ぶには、当然ながらグローバルな視点が絶対的に必要となる。最近の大学生は留学離れが目立つとされるが、国際志向の強い教員らの影響を受け、環境共生学類の所属学生は、他大学と比較しても海外経験を有する学生数が圧倒的に多い。短期から長期の語学留学、海外実習、卒論調査など様々なケースで学生諸君は世界各地にて学んでいる。アメリカ、カナダ、マレーシア、カザフスタン、モンゴル、ロシアなどリストできない数に達する国々で学びつつ、新しい時代の環境学を切り開こうと努力している。数値が手元になく申し訳ないが、各学年で20~30名以上は毎年、学びを主体とした海外渡航を経験している。小さな学類として大きな数値であることは間違いない。

この結果、環境共生学類の卒業生は青年海外協力隊員として活躍する人材も増えてきた。さらにマレーシア、中国、スウェーデンなどからの留学生もゼミに配属され国際化が進みつつある。

グローバル（Globalな視点でLocal）で活躍できる人材育成こそ、環境共生学類の強みである！



野生動物学コースの実習（西興部村）



生命環境学コースの実習（洞爺湖町）

■獣医学類「学類の近況」

獣医学類長 及川 伸

同窓生の皆様には、日頃より獣医学類の運営等に関してご支援を賜り心から感謝申し上げます。

この1年の獣医学類の教員の異動をご報告いたします。2016年3月に獣医放射線生物学ユニットの林正信先生と獣医解剖学ユニットの平賀武夫先生が定年退職されました。両先生には長年に渡り本学獣医学科および学類の教育、研究そして運営の中心として多大なるご貢献を頂きました。われわれ後輩教員一同、心から感謝申し上げますと同時に、お二人のこれまでのご尽力を継承して行かねばと思う次第です。新任として、伴侶動物内科学Ⅱユニットに堀泰智先生（准教授）と獣医放射線生物学ユニットに五十嵐寛高先生（助教）が着任され、教育、診療、研究にと忙しい日々を精力的に過ごされています。また、嘱託助手として伴侶動物学分野に堀あい先生（本学41期卒）と伊藤暁史先生（本学41期卒）、生産動物学分野に菅野美樹夫先生（本学14期卒）と佐藤綾乃先生（山口大卒）が着任されました。4名の先生は臨床経験も豊富であり、後述の新たな臨床実習の展開において教育の一層の充実にご尽力いただいております。

獣医学科創設から50余年を経過し、大学での教育は新たなステージに入っております。新しい二つの取り組みについてご紹介します。

まず一つ目は、本年度の4年生から共用試験が実施されます。この試験は全国の全ての獣医系大学で実施されるもので、学生が臨床実習を履修する前に合格しておく必要がある試験です。臨床実習はこれまでの見学型実習から参加型臨床実習へ移行することから、学生の知識、技能、態度等の水準を確保し、社会的な信頼性の保証評価として行われるものです。医学や歯学では平成17年から、薬学では平成22年からすでに開始されています。試験は学科試験（VetCBT：コンピュータを用いたテスト）と、実地試験（VetOSCE：教員による実習試験の評価）の2種類に分かれており、当大学では2017年2月16日と2月21日に記念すべき第1回が予定されています。実地試験に関しては、全学生に同様の課題を課す必要があ



写真1 かなり広々とした VetOSCE 室

ることから大きな会場の設置が求められていましたが、2016年2月に臨床獣医学教育研究棟が竣工され3階に獣医学共用試験に対応する VetOSCE 室が設けられました（写真1）。

また、さらなる臨床教育の充実を図るため附属動物病院も改修工事され、2016年7月に附属動物医療センターとしてリニューアルオープンしました。参加型臨床実習の運営を考え、特に伴侶動物部門において多くの学生が一堂に会せるような広い診療処置スペースの確保や医療機器の充実が図られています（写真2）。

もう一つは獣医学教育の国際化であり、中長期的な取り組みです。全国大学獣医学関係代表者協議会に2015年度から「獣医学教育国際化検討委員会」が設置されました。海外の認証評価である AVMA（米国の獣医学教育認証システム、カナダ、ニュージーランド、オーストラリア、ヨーロッパの獣医科大学の認証評価）や EAEVE（欧州連合（EU）およびその周辺国の獣医科大学の認証評価）などに関しても、その取得の可能性が一部の国立大を中心に検討されています。このように獣医学教育を国際水準に適合させるための改革が進められており、本学獣医学類としても将来を見据えた検討を実施しているところです。一方、獣医学類の衛生環境学分野（DHES）では、2014年5月から東大の食の安全センターとシンガポール国立獣医公衆衛生所と一緒に OIE の Joint Collaborating Centre for Food Safety (OIE-JCC) に指定を受けており、国際的な教育を考える上でも DHES の今後の活動が期待されます。

獣医学類には、毎年重要な案件が降り注いでおりますが、何と言っても現場に役立つ獣医師の輩出という創設当時から目的は見失わないように我々教員が、学生教育のさらなる充実と研究の推進に邁進しなければならないと思っております。

最後になりますが、今後とも相変わらずのご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。また、同窓生皆様のご健勝と益々のご発展をご祈念申し上げます。



写真2 参加型実習のための広い診療処置スペース（伴侶動物部門）

■獣医保健看護学類「近況－6年目迎えて－」

獣医保健看護学類長 北澤多喜雄

2011年度に新設された獣医保健看護学類は、6年目を迎え2016年3月には2期生を送り出しました。就職先としては、伴侶動物の動物看護師（4割）、民間企業（3割）とこの2つの分野で全体の7割以上を占めています（1期生もほぼ同じでした）。それに加え生産動物の動物看護師、公務員、大学院など様々な分野に就職しており、大学が目指している就職多様性が現れた形になっています。中でも生産動物分野の動物看護師ではオホーツクNOSAIに2名を人工授精師として採用して頂いており、このことは全国の動物看護系大学でも話題になっています。現在、教員構成は、9名（教授4名 内田先生、北澤、嶋本先生、中田先生、准教授3名 佐野先生、郡山先生、椿下先生、講師2名 宮庄先生、八百坂先生）であり、学生は4学年合わせて240名余りで、1名の先生が25名ほどの学生の面倒を見ている計算になります。囑託教員として黒澤先生にご尽力を頂いている他、専門基礎科目や学内の動物病院実習に関しては多くの獣医学類の教員に、基盤教育に関しては多くの大学教員から手助けを頂いてこの6年間走ってきました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。本年度は、1～2年生までの新カリキュラムと3～4年生の旧カリキュラムが並走し学類教員への負担も少し多くなっていますが皆、教育と研究に誇りを持ち自分の職務を遂行しています。

学類で学生に行ってもらっている学類犬のお世話は酪農学園大学の建学の精神である「実学教育」を具現化するものです。学生（基本的には1年の後期から2年の前期）は、朝昼晩の1日3回、学類犬の食餌、散歩、歯ブラシ、ブラッシング、あとは簡単な健康チェックやシャ

ンプーを行っています。犬の行動・生態そして健康または疾病状態を自らの目で確かめるこの作業は「動物をみて現場から学ぶ」ことの大切さを再認識させてくれます。

また、この作業は当番制で行われシフト管理も学生に任せており、学生はコミュニケーション能力や協調性も同時にトレーニングしています。動物看護の現場を自分の目で確かめてもらうために学外動物病院の実習を2～4年生の間に2回（1回は10日間の実習）行ってもらっています。この実習には、酪農学園大学出身の多くの臨床獣医師にお手伝いを頂いており、学生に対して的確なアドバイスを頂いています。

卒業論文に関しても選択科目ですが、8割以上の学生が履修しています。卒論発表会では1日を目一杯使い30～40題の演題が発表されており、学術集会で発表し奨励賞等を受賞する学生も出てきて今後が楽しみです。人間でいえば小学校に上がる年になりました。たかが6年、されど6年、獣医保健看護学類の歴史がつくられつつあります。今後ご支援のほどよろしくお願い致します。



2016年4月新入生オリエンテーション



2016年3月学類2期生卒業式記念写真



挨拶



酪農学園大学同窓会校友会 事務局長 加藤 清雄

今後も皆様の益々のご健康と、ご発展をお祈りいたしますとともに、校友会へのご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

4月には熊本県を中心に震度7を観測する地震が2回も起こり、その後も長期間継続し被災地の方々に苦しめました。また、観測史上初めて東北地方の太平洋側に台風が上陸し、北海道では観測史上初めて1週間に3回台風が勢力を維持したまま上陸し、大きな被害をもたらしました。また各地で台風の停滞などによる集中豪雨で被害が多発いたしました。被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。

校友会では新しい事業として、母校を訪問された方に贈呈する記念品「名入りのボールペンとメモ帳」を作製いたしました。早速、ホームカミングデーの行事に参加された方々にお持ち帰りいただきました。記念品は今後も同窓生会館でお渡ししておりますので、学園を訪問された際には是非同窓生会館にお立ち寄りいただき、近況などをお聞かせください。



記念品のオリジナルメモ帳とボールペン。同窓生会館に訪問いただいた方やホームカミングデーなどで配布しています

シリーズ酪農学園の精神(10)を発行しました

2004年に始まり本年度で最終号となりました、シリーズ酪農学園の精神(10)「酪農学園の精神」シリーズを終えるにあたって一新した「酪農学園の精神」の方向―(著者 酪農学園大学 工藤英一名誉教授)を2016年9月に発行いたしました。

以下、同窓会に残部が多少あります。

シリーズ「酪農学園の精神」

(1)酪農学園設立の理念とその現状

著者 酪農学園大学 松井幸夫名誉教授

(4)大学自治における学生の役割について

著者 酪農学園大学・短期大学部 井上昌保元教授

(8)協同組合の社会的意義

著者 酪農学園大学 村岡範男名誉教授

(9)酪農学園の建学の精神に育てられて

著者 酪農学園大学 小山久一名誉教授

(10)「酪農学園の精神」シリーズを終えるにあたって

―新たな「酪農学園の精神」の方向―

著者 酪農学園大学 工藤英一名誉教授

住所、氏名、連絡先を明記のうえ、ご希望の号を記載しFAXかメールでお申し込みください。ホームページで閲覧可能な号もございます。

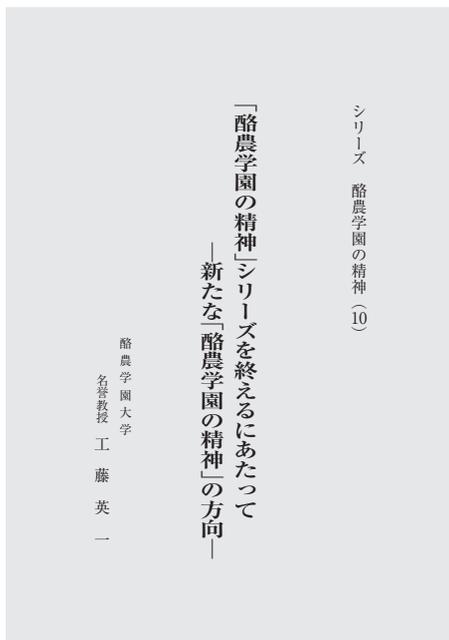
【お申し込み先】

酪農学園大学同窓会校友会 事務局

FAX：011-386-5987

E-mail：rg-kouyu@rakuno.ac.jp

HP：http://kouyukai.rakuno.org



2016年度第25回ホームカミングデー開催報告

前夜からの雨で心配されましたが9月17日（土）当日の朝には雨もすっかり上がり秋晴れの中、第25回ホームカミングデーが同窓生会館前および黒澤記念講堂を会場に開催されました。

午前11時から同窓生会館前で野外バーベキューランチが始まり在學生や全国からの卒業生、元教職員、現教職員約100人が集まり交流を楽しみました。

食材は前回同様本学フィールド教育研究センター肉畜生産ステーションで肥育された日本短角種や本学乳製品製造学実習室の牛乳やアイスクリーム、トンデンファーム（本学OB経営）のウインナー、野村武同窓会顧問差し入れのトウモロコシなど盛りだくさんで参加いただいた皆さんに大変喜んでいただきました。

野外バーベキューランチは（公財）酪農学園後援会 永田享常務理事による進行で、小山久一同窓会会長から歓迎のあいさつ、竹花一成学長、貴農同志会 大谷俊昭副会長からそれぞれあいさつをいただきました。

会場では学生サークル「ブルーグラス研究所」の演奏により心地よい音楽が流れる中、和気あいあいとは進み札幌支部長 下田尊久氏、同事務局長 中山博敬氏、短期大学部同窓会長 堀内信良氏、7月より酪農学園常務理事に就任した近雅宣氏からあいさつをいただきました。

12時半には恒例となりました仙北富志和学園長の「また来年お会いしましょう！」のあいさつで野外バーベキューランチを閉会しました。



竹花一成学長



仙北富志和学園長



ブルーグラス研究所



バーベキューランチの様子

会場を黒澤記念講堂に移し午後1時30分より記念礼拝（物故者追悼）、記念講演が加藤清雄同窓会校友会事務局長の進行で開催されました。

記念礼拝はとわの森三愛高等学校榮忍校長（大学宗教主任）により執り行われ、讚美歌合唱のあと聖書「マタイによる福音書5章38～48節」が朗読されました。



とわの森三愛高等学校榮忍校長

続いて記念講演に先立ち、(学)酪農学園 谷山弘行理事長から講演者紹介ならびに謝意のあいさつをいただきました。

講演は神奈川県鎌倉市在住で本学食品科学科2期の大橋巖太氏を講師としてお迎えいたしました。

テーマは「ブランド」でハーゲンダッツジャパン生



谷山弘行理事長

次年度もこういった機会に同期会や部活OB・OG会、ゼミなどを開き、多くの方に野外バーベキューランチで恩師や友人との交流、記念礼拝・記念講演に参加していただきたいと思います。酪農学園同窓会では同期会などの開催に対して事前申請により助成金の補助を行っております。

詳しくはホームページでご確認ください。

加藤事務局長から物故者のご芳名が読み上げられ追悼が行われ祈りを捧げました。

榮校長は「与えなさい」をテーマに奨励を行い、頌栄・祈祷・後奏により記念礼拝を終え、最後に全員で酪農讚歌を合唱しました。



加藤清雄同窓会校友会事務局長

産部マネージャーとして様々な製品開発などの経験や活躍から企業としてのポリシーや品質・美味しさ、人気の秘密、アイディアなど「ブランド」を維持、高めるための創意工夫などを紹介していただきました。

開発現場からの経験やそれに伴う活動など大変興味深く楽しい講演内容でした。



講師の大橋巖太氏

第26回ホームカミングデー
2017年9月9日(土) 開催予定

- ・ 野外バーベキュー
- ・ 記念礼拝
- ・ 記念講演

●酪農学園同窓会 <http://rakuno.org>

●大学同窓会校友会 <http://kouyukai.rakuno.org>

学生応援企画メニュー実施

2016年度同窓会校友会の事業として前年に引き続き実施されました第2回学生応援企画メニューのご紹介をいたします。

酪農学園大学生協の協力により6月中4回にわたり日替わり丼（健土健民牛乳付き）を200円で提供させて頂きました。

昨年度実施の際にはたくさんの学生にアンケート協力を頂き、ボリュームや価格の満足度、メニューの希望などを確認し本年度に反映されました。

6月10日かき揚げ天丼、16日キーマカレーハンバーグ丼、22日チキンカツ照マヨソース丼、28日ハヤシソースメンチカツ丼いずれも健土健民牛乳付きです。

午前10時から午後2時の間、各日250食限定、4日間で1,000食を用意させていただきましたが全てお昼までには完売するという盛況振りでした。

食べている学生に意見などを聞いたところ「毎日でもやってほしい」「すごく美味しい」「牛乳が付いているのが嬉しい」などとても喜んでいる様子でした。

次年度も酪農学園大学生協と協力し、学生に喜んでもらえる同窓会校友会事業の一環として企画し実施していきたいと思っております。



同窓会校友会会員の皆様

酪農学園大学 学長 竹花 一成

ご健勝のことと存じます。学長に就任し早くも1年半が過ぎました。この間皆様には多くの叱咤激励をいただき、心よりお礼申し上げます。

この間の酪農学園大学並びに、私への評価はいかがでしょう。ぜひ学外からご覧になっている母校と学長への評価をいただければと思っております。それも校友会の大きな役目かと存じます。

私自身微力ですが、今までの大学の現状、教育を中心に少しでも社会の評価が上がるように教職員を鼓舞してまいりました。ただ鼓舞するのではなく、教育のシステムの再検討、今後の改組に関わる再検討、何より酪農学園大学の「酪農」を核とした教育を進めるべく再度見直しを行っております。この様な内容は会員の皆さまからも意見をいただい



ておりましたが、教員一人ひとりが何のために酪農学園大学の教員になっているのかを考え、同様に職員も自分達の与えられた場所で貢献するよう、日頃からの意識付けが重要と考えます。この考えは我々の後に続く人たちにも伝えていきます。

私自身、建学の理念「健土健民」を教育の柱に「学生を宝と思い、本学でしっかり磨き」伸びしろのある

人間を社会に輩出する事を第一の目標としております。そのためには、酪農学園に職を持つ教職員一人ひとりがきちんとそれを担える人間でなければなりません。学生から親しまれ、模範となるのが大事です。そして、本学の名をより一層高めるためには教職員の研さんごそが必至で、我々自身の日々の努力、そしてそれが自己満足ではなく、社会に対してしっかりとアピールできなければ意味がないと思っております。



我々教職員はもちろん、学生そして卒業生一人ひとりが「北海道には酪農学園大学がある」と声を大にして話し、語り合ってもらえるような大学を目指していきます。今後とも何卒よろしくご指導下さい。

また、校友会会員の皆様には大学へ気軽にお越しいただきたいと思っております。そして、今この様に大学が変化しているかを、学生に対する対応等々、見て確かめてほしいのです。大学の主役は学生と教職員、そして卒業生、保護者の方々と思っています。

校友会は酪農学園大学同窓会の中核としてこれからますますその立場そして責任も大きくなっていきます。全国の会員間の連携を密に、より一層の発展を心より祈っております。

末筆ではございますが、全国各地での災害に際し、被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。



オープンキャンパスにて学生と学長、教職員で記念撮影

会計報告

2015年度予算・決算および2016年度予算について下記のとおり了承された

収 入

(単位:円)

項 目	2016年度予算	2015年度決算	2015年度予算	備 考
前年度繰越金	10,286,958	23,781,778	23,781,778	
新同窓会費	25,440,000	23,940,000	23,940,000	30,000円×798名
同窓会費	11,625,000	11,520,000	11,895,000	15,000円×768名
利 息	5,000	6,069	5,000	預金利息
助 成 金	10,000	10,000	10,000	同窓会より
ホームカミングデー分担金	200,000	160,000	300,000	学園・関係団体より
雑 収 入	100,000	0	100,000	
合 計	47,666,958	59,417,847	60,031,778	

支 出

項 目	2016年度予算	2015年度決算	2015年度予算	備 考
校友会事業費	9,850,000	9,199,489	10,790,000	
入学式関係費	1,600,000	1,360,359	1,600,000	パスケース、案内文書
卒業式関係費	6,400,000	6,217,530	7,340,000	学位記ホルダー、卒業記念写真他
在学生関係費	500,000	437,560	500,000	白樺祭助成金他
同窓生関係費	300,000	292,912	300,000	記念品製作代
ホームカミングデー関係費	300,000	224,990	400,000	食品・備品、謝礼金他
会報関係費	600,000	567,000	500,000	印刷代
シリーズ小冊子	150,000	99,138	150,000	印刷代、送料他
同窓会支部活動助成費	5,983,750	5,774,250	5,774,250	通信・活動費助成他
同窓会費返還金	0	300,000	0	退学者12名分
校友会運営費	3,590,200	3,231,902	3,590,200	
会 議 費	200,000	110,580	200,000	理事・代議員会他
同窓会負担金	640,200	640,200	640,200	同窓会
人 件 費	2,200,000	2,167,136	2,200,000	事務局長手当を含む
通 信 費	50,000	45,320	50,000	電話料・郵送料
旅費交通費	80,000	85,140	80,000	理事・代議員会他
慶 弔 費	20,000	0	20,000	弔電
事務用品費	300,000	92,419	300,000	コピー、トナー代他
消 耗 品 費	50,000	51,407	50,000	フロアマットリース代他
雑 費	50,000	39,700	50,000	振込手数料他
雑 支 出	16,960,000	30,625,248	0	基金へ(卒業記念事業費、周年事業費)
小 計 (a)	36,383,950	49,130,889	20,154,450	
予 備 費	11,283,008	0	39,877,328	
当期余剰金	0	10,286,958	0	
小 計 (b)	11,283,008	10,286,958	39,877,328	
合 計 (a + b)	47,666,958	59,417,847	60,031,778	

(単位:円)

(単位:円)

卒業記念事業費(準会員積立金)	
2014年度	16,040,000
2015年度	15,960,000

周年事業費(基金)	
~2015年度	17,343,143

2016年度酪農学園大学同窓会校友会理事・代議員会報告

5月19日(木)新さっぽろアークシティホテルにて2016年度酪農学園大学同窓会校友会理事・代議員会が開催された。

理事7名、代議員9名が出席した(委任状14名)。監事2名、事務局2名出席。議長は小山久一会長が務めた。

冒頭小山議長のあいさつのおと議事が進められた。議事録署名人は佐藤元昭理事と柘原孝志代議員が選出された。

議案第1号:2015年度事業報告並びに収支決算、監査結果について報告され了承された。第2号:2016年度事業計画(案)並びに収支予算(案)が提示され了承された。第3号:2016年度同窓生関係費について従来、書籍を発行し同窓生に配布してきたがこれを見直し大学来訪の同窓生に贈呈する記念品作成が提案され了承された。報告①一般会計と基金を整備し通帳を分けて管理した。②同窓会校友会からの学園評議員推挙について候補者4名を報告した。③同窓会校友会からの酪農学園同窓会代議員推挙について16名(継続7名、新規9名)を報告した。

物故者 2015年4月から2016年3月

ここに謹んでご冥福をお祈り致します。

佐伯 憲司(酪農・1期)	大熊 正毅(酪農・6期)
奥村 信輔(酪農・6期)	武貞 直人(酪農・6期)
今井 喜文(酪農・8期)	川山 信孝(酪農・9期)
久世 滋(酪農・9期)	柏倉伊佐男(酪農・10期)
山崎 杉尚(酪農・23期)	境 直人(農経・5期)
沼田 進(農経・12期)	東出 治通(農経・12期)
南岡 稔(農経・12期)	高田 昇(獣医・2期)
塚越 啓(獣医・3期)	今吉 幸二(獣医・7期)
山田 耕司(獣医・10期)	田中 敏夫(獣医・12期)
猿渡 敬祥(獣医・13期)	前中 勤(獣医・14期)

敬称省略

発行者 酪農学園大学同窓会校友会
 北海道江別市文京台緑町582番地
 T E L (011) 386 - 1196
 F A X (011) 386 - 5987
 E-mail rg-kouyu@rakuno.ac.jp
 ホームページ http://kouyukai.rakuno.org
 印 刷 社会福祉法人 北海道リハビリ